

ときを越え  
受け継がれるもの

## 羽田八雲神社の イロハモミジ

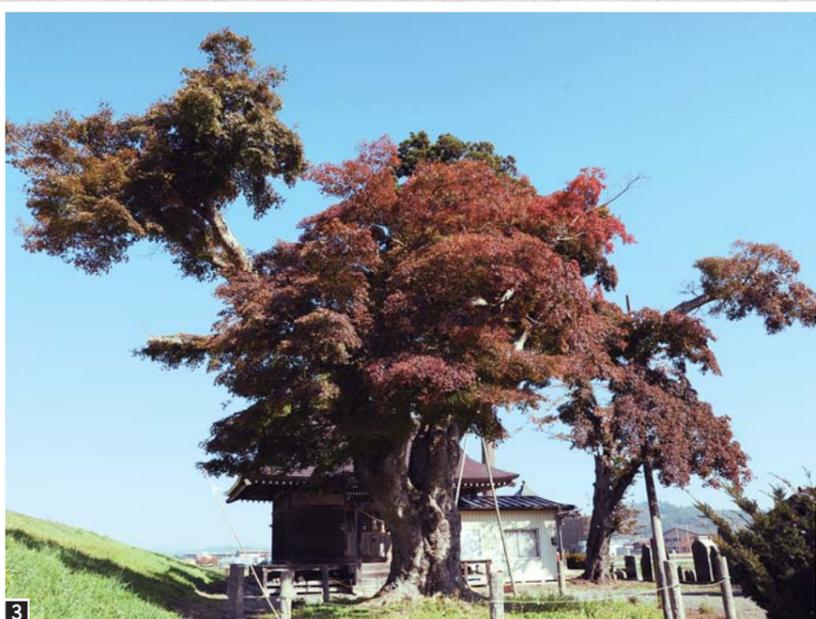
水沢区羽田町字粟ノ瀬

水沢の市街地から国道397号を東に進み小谷木橋を渡った左手、北上川堤防沿いの静かな田園地帯に八雲神社とイロハモミジは立っている。

八雲神社は、同地の小林氏の祖先が1585年に岐阜県大垣市から移住した際、北上川沿岸の地蔵島に遷座したことがその始まりで、1646年の大洪水により現在の地に移転したと伝えられている。山の谷間に見られる落葉高木のイロハモミジ。自生地の北端は福島県であり、八雲神社のイロハモミジは植樹されたものである。樹高約13m、目通り幹周3.64mの大きさと力強い枝張りを誇る巨木で、昭和56年に天然記念物として市の指定を受けた。

昭和のカスリン・アイオン台風での洪水などの水害にも耐え、この地を見守ってきた羽田八雲神社のイロハモミジ。紅葉の季節を迎え、色付きを深める枝葉は、見事な錦模様を織りなす。

※現在の江刺区愛宕字西地藏島・東地藏島付近



1八雲神社の社殿。向かって右側の壁面には地域の有志が奉納した由緒板が掲げられている 2鳥居から境内へと歩を進めると、左手にイロハモミジが姿を見せる 3イロハモミジの植樹年は不明ながらも、推定樹齢は300年以上。市内にあるカエデ科の中でも古木に属す 4北上川の堤防から望む八雲神社とイロハモミジ。巨木が神社を守っているようにも見える

広告

